

ボランティア特集も4号発行になります。多くの感動と達成感を味わえていることに感謝する毎日です。第4号では、ちょっと情報が古くなりましたが第3号で予告した通り、10月1日にバスボランティア第3弾として実施した石巻市荻浜地区他の活動を紹介します。

皆様に共感していただき今まで以上の応援及び支援が頂ければ幸いです。できるならば私達龍 JIN の活動の輪の中に入って共に活動されることを願っています。

平成23年10/1(土)石巻市荻浜地区他バスボランティア第3弾

平成23年10月1日(土)、バス使用のボランティア活動第3弾として高校生26名を含む過去最高の63名、中型バス2台、サポート車1台で石巻市荻浜地区、鮎川地区等で活動してきました。

am3:00に市役所を出発、石巻市渡波地区に入る頃から震災後半年以上経過してもなお津波の被害の大きさに驚かされる光景を見ながら9:00過ぎに牡鹿半島荻浜地区に到着。

旧牡鹿町(現石巻市)荻浜地区は、漁港を持つきれいな入り江で牡蠣の養殖が盛んな80軒ほどの集落です。今回の津波でほとんど壊滅し現在14軒の仮設住宅に約35名が居住しています。9月21日の台風15号で道路にも土砂崩れがあり、仮設住宅にも浸水被害がありました。



今回のボランティア活動実現の背景

今回の活動は、9月10日に龍JINメンバー有志が荻浜地区の仮設住宅で炊き出しボランティア活動を実施した時に、住宅の息子さんたち世代が牡蠣養殖の復興のための準備作業を始めたと聞き、浜辺周辺の片づけ作業も含めて、ぜひ応援させて欲しいとお願いしたことで実現したものです。

仮設住宅の豊嶋区長さん、婦人部長の江刺さんとお手伝いできるボランティア活動の内容を話し合いました。

瓦礫の上に生い茂った草刈りや瓦礫処理、浜辺周辺の片づけ等、お手伝いできる仕事がたくさん出てきました。せっかくの機会なので仮設の皆さんと一緒に炊き出しをしてボランティア全員で昼食を食べましょうと提案したところ、喜んで応じてくれました。さらに先日の龍JINの炊き出しボランティア活動に合流した東京のアーティスト釘宮さんの似顔絵コーナーも実現するという豪華なボランティア活動になりました。

さらに嬉しい心遣い加わる

今回の活動には、さらに嬉しい心遣いがありました。JAなす南さんから新米300Kg、那須烏山市八ヶ代の中山農園さんから栃木の梨豊水2箱約10Kg超をいただきました。

さらにNPO法人「野うさぎくらぶ」さんから子どもたちのメッセージ付ポピーの種、この袋の中には、那須烏山市長と高根沢町長のメッセージも含まれています。

新米については10Kgに小分けにして那須烏山市の子どもたちの応援

メッセージを貼り付けて届けようと計画しました。

応援メッセージに応じてくれたのは那須烏山市ガールスカウト、NPO 法人「野うさぎくらぶ」の子どもたち、龍 JIN メンバー大和さん率いる少年野球部の子どもたち及び栃木県立烏山高校福祉委員会の生徒です。

全部で50枚も集まりました。

子どもたちの純粋な心は現地の皆さんの心に響き、元気と勇気を与える大きな力があります。被災地のおばあさんやおじいさんから感動を呼ぶ礼状が子どもたちに届きます。一部を末尾の頁に紹介しました。



津波被害と台風被害の説明を受ける

荻浜住宅の豊嶋区長さんからボランティア活動への謝辞と津波被害の状況に加えて台風15号で仮設住宅が床上まで土砂が入り込んだこと、さらに海水が増水し牡蠣養殖用ロープが流されるなど、1年間で何度も被害に遭う辛さを話していただきました。現場での説明は具体的で説得力がありました。



荻浜地区豊嶋区長から挨拶と説明を受ける

炊き出し班他6班でボランティア活動開始

今回の活動は65名という大人数のため6班に分けて活動しました。

◆1班は炊き出し班、2及び3班は草刈りと瓦礫処理班、4、5班は浜辺や海岸周辺の片づけ班です。ボランティア各自が荻浜のみなさんとボランティア相互が笑顔になるため何をすべきかを考えながら自ら行動することを確認して活動を開始しました。





第4班海岸瓦礫処理・燃えるゴミ集め



◆壊れた集会場に素敵な似顔絵のための釘宮似顔絵スタジオを作りました。



◆心遣いの品々を贈りました。中山農園の梨豊水は昼食時に美味しく頂きました。



龍 JIN 別チームの活動紹介

今回の活動の一環として別便のトラックを仕立て、リサイクルショップで購入し修繕した自転車15台を牡鹿半島に届けた活動を紹介します。

1. 5トントラックを快く貸していただいた方がいます。そのトラックに自転車を載せて副キャプテン奥成とベルギー出身のダークで那須烏山市を出発し荻浜で合流しました。



牡鹿半島地区は、壊滅的な被害を受けましたが、自転車があるととても便利だと聞いたので多くのリサイクル自転車を買求めました。これらを修繕し荻浜地区に5台、鮎川地区に子ども用を含め10台、合計15台を届けました。どの地区もとても喜んでくれました。

また、荻浜地区の一行と別れて心通じるボランティア活動の可能性を模索すべく他の地区を廻り多くの人と話をしてきました。

元氣と前向きさを取り戻すために仮設住宅内にサロンを作り趣味教室を始めた地区があり、先生役を探していることやミシンなどの器材が不足していることなどたくさんのニーズを聞くことができました。また、ある地区は、まだ炊き出しが必要な状況であり、このような地区がたくさん残っていることも分かりました。

冬着も含めてほとんど流されてしまったまま冬を迎える人がたくさんいます。

今後のボランティア活動に、今回調査した内容を活かしたいと思います。調査した内容で石巻～鮎川間を路線バスが運行開始したことも分かりました。

これにより車がなくても仙台～石巻を復興支援バス(¥800)で乗り継ぐことで鮎川まで移動可能となりました。

参考に石巻～鮎川間の路線バス時刻表を掲示します。

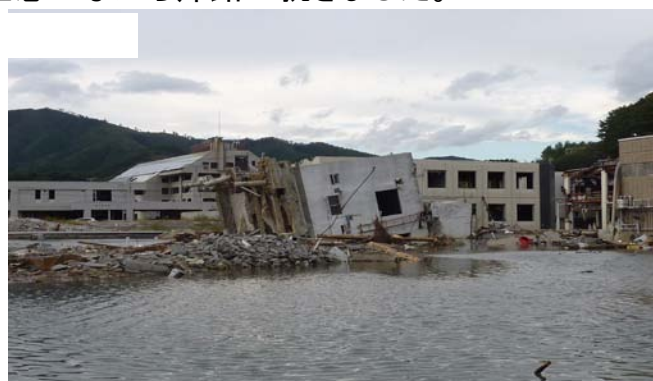
路線バス時刻表

鮎川公民館前 発 (平日) (土日休日)		石巻駅前 発 (平日) (土日休日)	
6:40	6:40	6:55	6:55
7:20	7:20	9:15	9:15
9:00	9:00	11:15	11:15
11:20	11:20	13:15	13:15
13:20	13:20	15:30	15:15
15:20	15:20	17:15	17:15
17:20	17:10	18:50	18:15

帰路に立ち寄った廿川漁港

震災後8ヶ月が過ぎようとしていますが、今まで何度もボランティアを経験している人も含めて女川漁港を見ての感想は一様に絶句でした。地盤沈下に加えて大潮だったこともあり、女川の波止場は完全に水没していました。

私達ボランティアのできることはとても小さいけれど、前向きな気持ちになってもらうお手伝いをこれからもやり続けなければと思いながら帰路に就きました。



ボランティア参加者の感想～高校生の頑張りを称讃しています

今回の計画は現地の人の顔が見える活動にしたいと願って準備を進めてきました。
良かった点として、

- ・全体的な感想として荻浜地区の皆さんとの心の交流が図れたこと、特に昼食を仮設の皆さんと一緒に食べたことで交流が深まったこと
- ・牡蠣やわかめの養殖の準備作業を手伝う貴重な経験ができたこと
- ・必ず訪れて復興の喜びを共有する約束ができたこと
- ・海辺の瓦礫処理及び草刈り班は大変だったけどきれいになって満足できたこと

一方反省点として

- ・鎌など、準備不足だった
- ・海辺の瓦礫処理は現地の皆さんとの交流が少なかったこと

全体的に現地の皆さんとの交流が図れたという感想が多く勇気付けられます。

ボランティア活動2回目の高校生は牡鹿半島の被害の大きさに衝撃を受けています。そして、少しでも役に立った喜びを持ち、次回も積極的に参加したいと書いてくれました。なによりも各班長さんから高校生の頑張りを称讃する感想が寄せられたことが嬉しいです。



今後の龍 JIN ボランティア活動について

今回の荻浜地区の活動は、被災した皆様の想いを汲んだ取組を模索しました。

完全ではないにしてもある程度心が伝わったのではないかと思います。これから冬に向かう時期であることも考慮し、できる限り相手の心に寄り添える活動、前向きな気持ちになってもらうお手伝いの活動をしていきたいと思っています。これからも皆様のご協力をお願いいたします。



子どもたちに届いた手紙の紹介です

栃木の新米に子どもたちの絵付応援メッセージを添えて、今回活動した石巻市荻浜地区仮設住宅の皆さんにお届けしましたが、荻浜のおじいちゃんとおばあちゃんから子どもたち宛てにお礼の手紙が届きました。

～ ちゃんへ

あの悪夢のような震災から7ヶ月がたとうとしています。避難所生活5ヶ月。

あの頃、回りを囲む桜の花も美しいと感じない自分達でありました。このまま感受性もない人間になるのかなあとも思いました。そして避難所を去る日の朝、坂道に咲くひまわりの花にホッとしたのを覚えています。

五十日目で電気がつき、水道は避難所を出る四、五日前に回復しました。給水車からの水は飲料水、洗たくは山からの水を利用してろ過し使用していました。

全国の皆さんからの物資、自衛隊からのお風呂等々、色んな面でありがたさ暖かさを改めて感じました。

私達の住む集落は五十戸余り、一五〇人位の人達が暮らす漁村でした。二戸を残して全壊し、私の家も車も船もカキ養殖筏、漁具、全てのものを一瞬にして失いました。今、浜に残っているのは十四戸となり、若い人達は街の仮設に入り子供達の声が聞こえず寂しい限りです。私達夫婦にも離れて暮らす高一、中一、小六、三才の孫がいます。貴方がたの暖かい暖かいメッセージを読み、本当にありがたくて涙しました。皆んなで回覧しました。

お米、とってもおいしくごちそうになっております。

栃木の米、元気が出ます。

栃木の米、笑顔になれます。

元の生活に戻るまでまだまだ時間がかかりますが一步ずつ進んでいきたいと思います。私達夫婦は旅行が大好きで栃木にもよく出かけていました。見どころいっぱいとても良い所ですね。

朝夕は肌寒くなりました。皆さんも体に気をつけ、ガールスカウトの活動、野球にと頑張ってください。今日は本当に嬉しいメッセージやお米等々ありがとうございました。感謝いたします。子供達のお母さま方、優しいお心に育ててくれてありがとう！

〇〇ちゃん、〇〇ちゃん、〇〇くん、〇〇ちゃん、子育て応援クラブ野うさぎさん、〇〇ちゃん、〇〇ちゃん、〇〇ちゃん、〇〇ちゃん、〇〇ちゃん、〇〇君、〇〇くん、〇〇くん、〇〇くん、〇〇くん、〇〇くん、〇〇くん、〇〇くん、〇〇くん、〇〇くん、〇〇ちゃん、〇〇くん、栃木県立烏山高福祉委員会の皆様、〇〇ちゃん、〇〇くん、ゴジラの絵、くれよんしんちゃんの絵、ハートの絵、ウィンクしたかわいい女の子の絵、野球のボール、バットの絵、バッターボックスに立つ絵などなど二人で笑顔になりました。

〔＊絵付メッセージを書いた子供達全員の名前です〕

住所が記載されていたのは〇〇ちゃんと〇〇ちゃんでしたので一筆かかせていただきました。どうぞ皆さまにくれぐれも宜しくお伝えください。

〇〇ちゃん、〇〇ちゃんへ

お母さま

□□ □□(6 6才)じじと

◇◇(6 2才)おばあちゃんです
(孫達が呼んでいます)

この手紙はお母さんたちが何度も何度も回し読みしたため私のところに届いたときには、ボロボロになっていました。

JAさん以外にも米を提供してくれた方がいました。次号で紹介する石巻市泊浜地区にお届けしました。たくさんのお礼の手紙が子供達宛てに届きました。紙面の関係で省略することをお許しください。

付録： チーム龍 JIN 応援シール 一口千円募金協力をお願い

私達の「那須烏山市災害ボランティアチーム龍 JIN(通称:龍 JIN)」の活動に共感し、応援していただいている皆様に、同じ志を持っている証明書としてかわいいシール(ワッペン)を差し上げています。車に貼り付けるととてもかわいいです。

龍神伝説がある地元の滝の観音様の神社で祈禱していただいたシールです。

趣旨や私達の思い入れについては地元の下野新聞記事を読んでいただくと幸いです。多くのみなさまの応援でさらに心温まる活動をして参りたいと思います。

多くの皆様に事前に協力をいただいておりますが、再度協力をお願いするものです。よろしくお願いいたします。

チーム龍 JIN の活動に共感して いただいている皆様へお願い

平成 23 年 11 月 7 日 下野新聞



下野新聞 那須烏山のボランティア団体

**龍の開運シール作製
活動資金協力者に配布へ**

【那須烏山】「開運の滝」の大蛇伝説に登場する水の守り神の龍をチームの名称に取り入れた市災害ボランティアチーム龍 JIN は、龍がモチーフの厄よけ開運シール千枚を作製した。活動資金の協力者に配布。東北ボランティアを応援しようと、市民有志が 6 月から募金活動を始め、一方、ボランティア活動をしてきた市民が同チームを結成。バスツアーを 3 回運行し、烏山高生を含む市民 150 人が参加した。

当初の募金は、被災地で炊き出ししてきた田舎のアヤラ産業の募金窓口は市社会福祉協議会など。問い合わせは同社協 0287・84・1294。(小林治郎)

約 30 万円をはじめる。0 人以上の協力で約 60 万円集まったが、活動資金確保のため、今回あらためて募金活動(一口千円)を行う。シールは丸形(直径 12cm)で、下境の坂本真弓さん(44)が考案。厄よけ、金運、学業運、愛情運、勝負運の 5 種類作製し、龍門の滝の諏訪神社で祈禱もした。

小堀道雄代表(62)は「多くの人に東北へ行ってほしいし、その橋渡しをしたい。自らは行けないが、募金で協力してくれる人もおり、一緒に活動している証しとしてシールを配りたい」としている。



那須烏山市災害ボランティアチーム龍 JIN

一口千円の応援シールだよ！
愛車に貼ってね
下の 5 種類あるよ



学業運シール



勝負運シール



金運シール



愛情運シール



厄除けシール